

【第94回生涯教育講座】

食物依存性運動誘発アナフィラキシー

もり 森 た 田 えい 栄 しん 伸

キーワード：蕁麻疹，血管性浮腫，小麦，非ステロイド系消炎鎮痛薬， ω -5 グリアジン

要 旨

食物依存性運動誘発アナフィラキシーは、食後の運動負荷によりアナフィラキシー症状が誘発される食物アレルギーの特殊病型である。原因食物を摂取したのみでは症状はみられず、摂取後の運動負荷や非ステロイド系消炎鎮痛薬の服用に伴って症状がみられることが特徴である。原因食物を経口摂取した場合、抗原分子は体内には吸収されないか、あるいは症状を誘発しない程度の量しか吸収されないが、運動負荷や非ステロイド系消炎鎮痛薬の服用に伴って多量の遊離抗原分子が吸収されると、体内で IgE と反応してアレルギー症状をきたすためと理解される。小麦が原因の場合が多く、その主要抗原は ω -5 グリアジンである。また、血清中 ω -5 グリアジン特異的 IgE の検出は、診断に有用で保険適用されている。

はじめに

食物依存性運動誘発アナフィラキシー (Food-dependent exercise-induced anaphylaxis: FDEIA) は、食後の運動負荷によりアナフィラキシー症状が誘発される食物アレルギーの特殊病型である。本疾患の由来は、1983年、Kidd らが食後の運動中に蕁麻疹や意識レベルの低下をきたした4症例を Food-dependent exercise-induced anaphylaxis として報告したことによる¹⁾。本邦では1985年串本らが、小麦を摂取後運動負荷にて症状が誘

発あるいは増強されるアナフィラキシー6症例を初めて報告している²⁾。彼らの論文は、Masked type I wheat allergy の題で報告され、小麦アレルギーは運動誘発される特殊性のために従来あまり認識されていないことを指摘し、その原因抗原は小麦グルテン蛋白質に含まれることをつきとめた優れたものである。

厚生労働科学研究による「食物アレルギーの診療の手引き」では FDEIA は食物アレルギーの特殊型に分類されているが、現実にはかなりの数の症例が存在する。本病型が高率にアナフィラキシーショックをきたすことを考慮すると、正確な理解と適切な対応は極めて重要である。

Eishin MORITA

島根大学医学部皮膚科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1